



第7752号

2023年3月14日(火)

女性リーダー育成のために

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

◆市議が男女同数の兵庫・小野市

3月8日は「国際女性デー」だった。毎年、この日が近づく象徴であるミモザの花とともに、各分野における女性活躍やジェンダーギャップ解消の取り組みの報道を目にする。筆者は女性経営者や管理職の勉強会、女性リーダー養成講座などに登壇する機会が多い。今年は4年に1度の統一地方選を控え、地方における女性の政治参画に注目が集まる中、筆者も関わったある市の取り組みが大きく報道されているのを見て嬉しく思った。

人口約4万6千人の兵庫県小野市。昭和の頃は、そろばんや家庭用刃物などの産業で栄え、現在は主要幹線道路の整備や都市基盤の充実により、周辺地域から子育て世帯の転入も増えていると聞く。小野市では2019年、市議会議員の数が全国でも珍しい「男女同数」となった。

市が誕生した1954年から2011年までに議員になった女性はわずか4人。一時ゼロだった女性議員は11年市議選で3人となり、4年後には4人、19年には7人に増えた。議会は定数16で、現在欠員2のため、市議は男女7人ずつとなっている。

◆きっかけは養成塾

きっかけは10年に始まった女性リーダー養成塾だ。議会、審議会、自治会など「意思決定の場」に参画する女性リーダー育成を目的に、男女共同参画の基本知識、女性活躍の必要性、企画力、リーダーシップ、コミュニケーション力、議員の仕事などを学ぶ連続講座である。筆者もプレゼンテーション講座を何度か担当した。自分たちの市を暮らしやすくしたいという思いを持った女性たちが共に学ぶことで、それが行動につながり、パワーアップしていく様子に立ち合わせてもらった。今や、その効果は周辺の市にも広がり、各市の女性リーダー養成講座を修了した女性たちが政治参画や自治会活動、起業や子育て支援、職場などでその力を発揮しようとしている。それらの講座の際に伝えた「話し方スキル」が、意思決定の場を目指す女性だけでなく、今、一步を踏み出そうとしている人の参考になればと思う。

◆伝わる声と話し方のスキル

まず、大切なのは声。聞きやすい声は安心感と信頼につながる。緊張し、肩に力が入ると喉が閉まり、硬い余裕のない声になる。背筋を伸ばし、肩の力を抜いて、顎は引き気味にし、鼻から吸う深い呼吸を使って、ゆっくりと話そう。声は上ずってしまいがちなので、少し低めの声で話すように心掛けると良い。間を取ることを恐れず、ときにはしっかりと顔を上げて聴き手を見ると共感が得られる。

話は結論から。一文(主語から述語まで)は40文字以内に収め、語尾の「です、ます」まではっきりと言葉にすると説得力が増す。主語を省略せず、「私は」を意識して話すと言の軸足がぶれず、責任ある発言として印象に残る。

会議などで自分の発言をさえぎって話し始めた人には焦らず、「今、私が話しています。私が話した後でお願いします」と落ち着いた声で伝えられると良い。また、反対意見を言う場合は「〇〇についてAさんは～というご意見なのですね。それに関して私は少し違う角度から発言します」など、相手を全否定せず、意見を受け止めた上で、自分の意見を伝える練習もしておきたい。

少数派の女性は「自分が失敗したら、『だから女は…』と思われる」と気負ってしまうことがある。自分を追い込まず、行動を起こした自身の力を信じてほしい、と思っている。(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003